



2025年6月7日(土)

荒船山(経塚山)1422.7m:西上州

レポート by 根岸

写真・コメント提供：中島、堀内(中島さん友人)、根岸

高崎を過ぎて上信越線の車窓から山頂が平坦で横に広い軍艦を彷彿させる山が荒船山であり、日本二百名山に入っている。バス便が悪いのと登山口までのアプローチが長いので、クマさん会では、2003年4月以来3回行っているが、2022年以来3年ぶりの今回は高崎からレンタカーを活用し、再挑戦した。クリンソウの開花時期を狙い、梅雨入り直前のこの時期にかかわらず、「絶好の登山日和」に恵まれた。



荒船山周辺には険しい山々があり、その中に山頂が平らな山「荒船山」が浮き出ており、それがまるで荒れた海に浮かぶ船のように見えることからこの名前がつきました。山頂が平坦なのは、700万年前の火山活動で地面に平らに流れた「荒船溶岩」が残ったものだと考えられています。

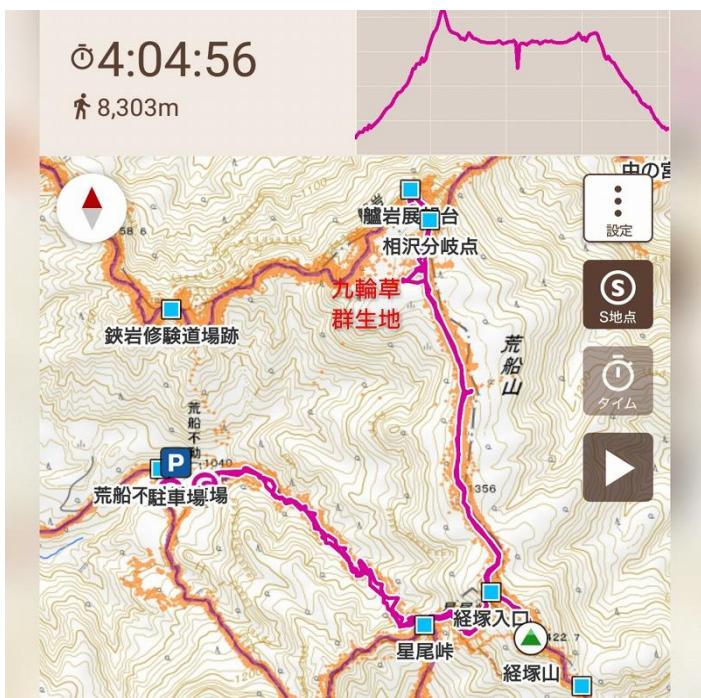
【荒船山の遠景】(再掲)

写真是、前回雄さんから拝借した下仁田・妙義山側からの姿である。

群馬県の南西部に位置する妙義荒船佐久国定公園の名峰で、下仁田町、南牧村、長野県佐久市にまたがる。荒海に浮かぶ不沈航空母艦のような荒船山は、古代人も崇拝した山。どこから見ても分かる特異な山容でファンが多い。

【荒船山はアクセスが悪い:上信電鉄下仁田から路線バス1日4本】で30分強の三ツ瀬から3kmに相沢登山口(図右上奥)が有る。

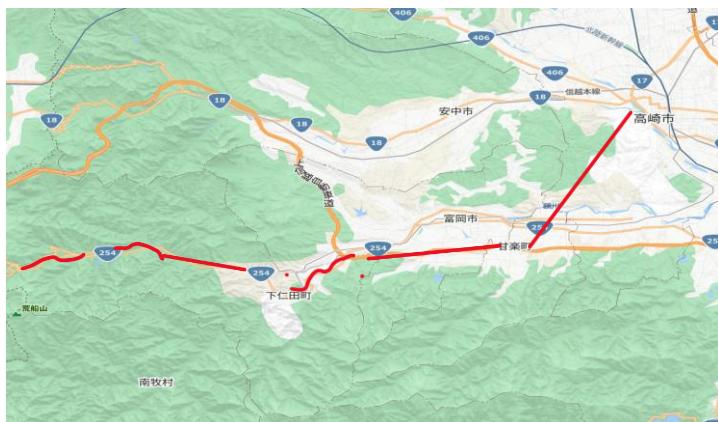
我々は交通便の良い高崎駅からレンタカーを利用し、約50分で254号線の内山大橋から狭道を上り、荒船不動尊登山口の駐車場に向かった。(左地図は、雄さん提供のもの、下は熊本さん撮影の写真を借用した)





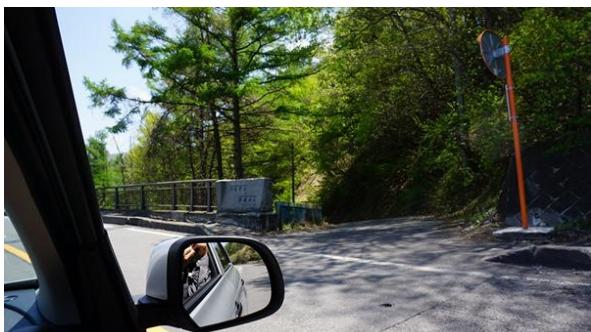
【高崎駅東口からレンタカー】

8時40分の集合時間に、駅から2分のレンタカー店で全員集合した。



車はホンダ フィットで、後部席に中島さん、堀内さんと、運転の根岸が乗り込んで8時40分に出発した。

ルートは、高崎駅東口から上信越自動車道の下仁田インターを経由して、国道254号を通り、内山峠にある内山大橋を目指した。



【内山大橋から荒船不動登山口へ】

左の写真は、荒船不動への下り口である。狭い道で、1回道を間違えたが、幸い対向車もなく、10時過ぎに荒船不動前の駐車場に到着できた。

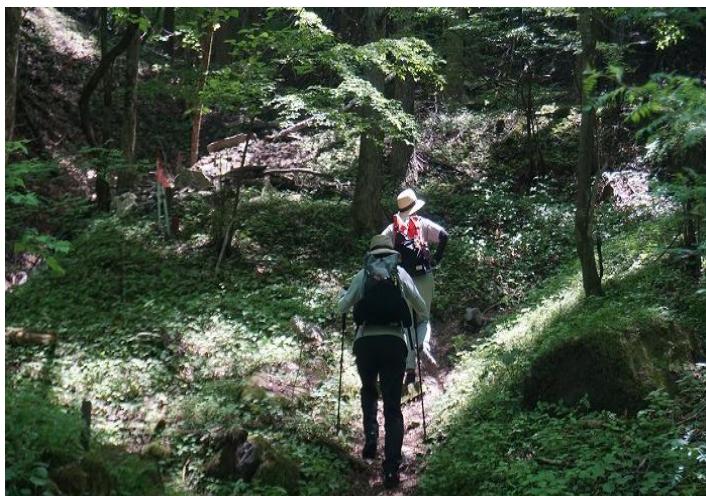
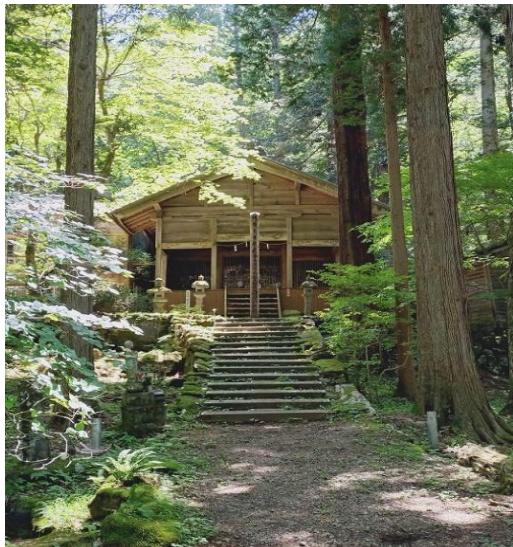


【荒船不動尊登山口駐車場】

左写真は、下山後に撮影した駐車場の写真だが、到着時は20台位止まる駐車場はいっぱい、路肩に止めた。幸い、下山してきた方がすぐに出たので、一等地に駐車できた。

【荒船不動尊で登山準備】

荒船不動尊出発は、10時25分



木洩れ日の中、中島さん先頭に
ゆっくり進んだ。



平成28年(2016年)9月に、神奈川県在住の小学校3年生(8歳)の行方不明掲示があつた。

調べてみると、母親と息子が艶岩の下へ滑落して、母親の遺体は見つかったが息子はまだ発見されていないようだ。
「クレヨンしんちゃん」の作者で知られる臼井儀人氏もここで撮影中、滑落死している。



星野峠には11時過ぎに到着した。この近辺は倒木も多く、雨が降った場合は要注意である。



分岐を経て、荒船山(経塚山)には11時50分に到着した。(合成写真)

【荒船山頂縦走】



山頂は、平坦で登山者にとってパラダイスである。

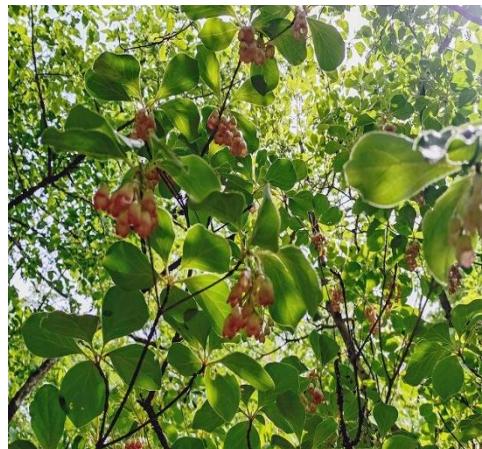
【荒船不動尊登山口から、荒船山艤岩（トモ岩）までの花たち】



サクラソウ



山つつじ(アップ)



ズミ



撮影中の中島さん



ササバギンラン



(山) クワガタ

【荒船山(経塚山)から艤(とも)岩まで】ヤマツツジとクリンソウ群生地



ヤマツツジ群生地



山つつじ(N)



群生地サイン



クリンソウ群生地(分岐近く)



クリンソウ(同)



孤高の花

【クリンソウ群生地(艶岩近く)でのスナップ写真】



クリンソウ(近写)



荒船山のクリンソウは、赤一色である。

前回参加された雄さんのコメントでは、
【奥日光千手が浜】のクリンソウは、
白、ピンク、紫などの色も有るそうです。

絶好調とまでは行かないが、見事な咲きっぷりを
楽しめた。

【爐岩(ともいわ)展望台にて】



【爐岩到着】展望が開ける。

左は他の登山客に撮影してもらった爐岩到着写真。



写真を撮影してもらったグループの方と仲良くなつた。車で横浜・多摩方面から来た方たちであつた。



堀内さん撮影の遠景(空がきれい)

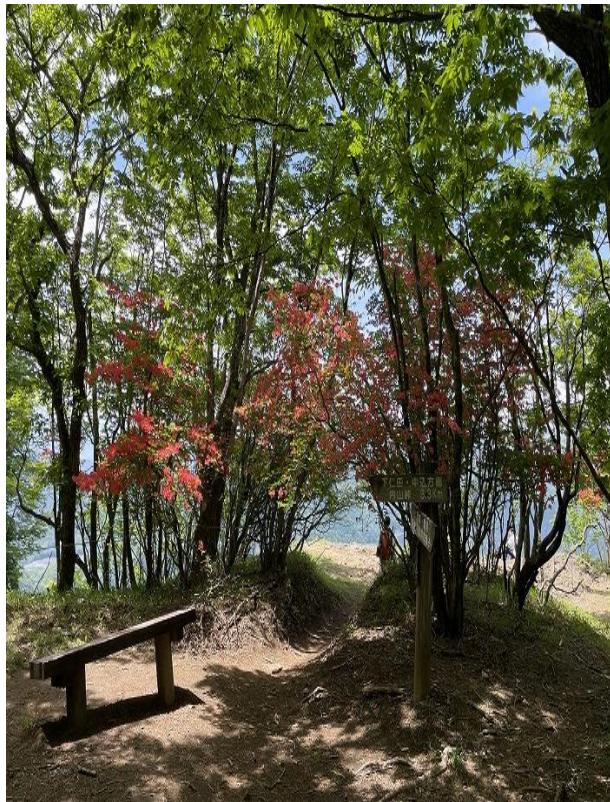


断崖絶壁にて



全員そろって、爐岩の上で記念撮影。 バックは 遠く浅間山が見える。

【待望の昼食】



艶岩の上も、見事なツツジが咲いていた。
少しピンクだったので、「アカヤシオ」かも知れない
ビニールを広げて、みんなで昼食。 :



:
13時15分：鍊岩出発：
再度クリンソウ群生地を探索しながら下山へ、

【岐路へ】



「エゾハルゼミ」：最初から最後 までずっと鳴いていたのに、だれ一人その姿を見ることができなかつた。
カエルのような低音部分が特徴的だつた。



下山は、90分の予定通りであった。
14時35分無事下山。

【帰路の車にて富岡製糸場へ】

前回行った「荒船の湯」は休止しており、代わりの温泉(芹の湯)は諦めて、「富岡製糸場」に直接向かうことにした。



下山途中: 舶岩直下の停車スポットにて:
約 300m の絶壁を写す。

(15 時 頃)

この写真は、中島さんの合成写真です。
貴重な 1 枚です。

世界遺産としての価値

富岡製糸場は、古くから桑の生産が盛んでいた生糸の大量生産を実現した。世界遺産として登録されたのは、明治時代に開拓された田舎町としての歴史と、その社会構造、工場施設などである。また、明治時代に開拓された田舎町としての歴史と、その社会構造、工場施設などである。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産

- 富岡製糸場
- 田島弥平旧宅
- 高山茶園
- 荒船廻穴

絹産業の工程と各資産との関わり

日本・中国・イタリアの生糸輸出量

A series of four exhibit panels. The first panel discusses the site's value as a world heritage. The second panel shows a diagram of the relationship between the site's components and the silk industry process. The third panel details the history of the silk industry. The fourth panel is a graph showing the volume of silk thread exports from Japan, China, and Italy over time.

【富岡製糸場】15 時 50 分到着
入場料千円、
施設内の解説ディスプレイは充実して
いた。

下の写真は、桑の葉である。

見学は、約1時間





【レンタカー返却】 17時40分

使用車はホンダ・フィット、走行距離120km、
ガソリン代は1407円、リッター14.5km

【恒例の反省会】



【高崎駅西口で店を探した】17時50分:

駅近の店に落ち着いた。

反省会は、18時から19時過ぎまで



サワーと、ブラックニッカのハイボールの
飲み放題各600円(1時間/一人)



皆さん、荒船山登山、富岡製糸場見学を
無事終えて、大満足の一日でした。

レポーター：根岸